

埋蔵文化財

ニュース

発行所
奈良国立文化財研究所
埋蔵文化財センター
〒630 奈良市佐紀町
☎ 0742-33-2324

1978.3.20

13

CAO NEWS

Centre for Archaeological Operations

古代家屋復原実態調査



島根県松江市出雲玉作遺跡

古代家屋の復原について

昨年10月、埋蔵文化財センターに保存工学研究室が新設された。当研究室設置の主要な目的は、遺跡を現地でいかに保存し、かつ活用するかという技術研究と開発にあると思っている。

室の最初の仕事は、当センターの通常業務である一連の埋蔵文化財発掘調査技術者研修の中で新しく保存整備課程を始めることであり、これは昨年末にはじめて実施した。次いで今回のニュースの刊行である。

さて、いわゆる古代家屋とは一般に静岡の登呂遺跡でよく知られているように、主として縄文時代から古代にかけての、その当時の一般的な住居や倉庫建物をいっており、復原例は与助尾根遺跡のものが最初と思える。もとより建物がどのような構造であったかを証明しうる現物はほとんど遺っていないのが通例で、建物の平面形については発掘調査で柱位置、側壁、かまど、炉跡などをみるとことにより掴めるが、その上部構造については建築構造としての基礎的な枠の中で平面形をもとに類推し、銅鐸にある線画や埴輪、あるいはわずかに出土する建築部材などを参考に復原するしかない。したがって正確な復原ではなく、推定にとどまらざるをえない。

こういった復原家屋は全国にかなりの事例があるが、その実態は正確に掴まれていない。

遺跡を整備する上で大切なことは第一にこわれ易い遺跡をいかにして保存継承してゆくかにあるが、第二には遺跡の状況を一般の人に理解しやすい形に整えることである。そのため従来建物跡などの平面形を盛土や張芝、植栽などで他と区分できるように工夫しているが、上部構造については根拠不足のこともあるって復原的な整備は行なわないのが普通である。そのため概して遺跡の状況が平面的になり、専門家や研究者にはそれでいいのであるが一般の人には説明をきかないと理解しにくいという問題が残る。そこで建物復原を含めた整備方法を考えられる訳であるがこれにも問題点が二つある。一つは復原の精度である。寺院建築のように現物も遺っていてかつ研究も進んでいる分野では学問的に復原の精度も高いが、両方の条件の整っていない分野では高い精度はのぞみえない。一般に対する影響を考えると、とにかく建っていればいいという安易なやり方は厳に慎しまねばならない。もう一つは復原することによって歴史に対するイマジネーションの場を固定してしまうという問題点である。荒れ果てた状態をよしとするのは脇に置くとしても、建物復原が部分に限られることと、遺構の変遷を全て表現できないことからも生ずる問題である。

以上の二点を気にしていれば正直いって建物復原という保存整備の方法を強く推し進めるわけにはいかない。しかし実験考古学の分野かもしれないが、建物遺構だけをいくら検討しても往時の生活の状態や住人の動きや居住性などをより正確に把握することは困難であろう。さらに復原に対する努力を重ねることにより学問的にも、また保存とは何かを考える上で大きな効果を期待できるものと信じている。

今回は短時日の調査依頼のため抜け落ちもあるうし、また参考文献などを網羅することもできなかったが、これについては引き続き補足調査をおこない、後日のニュースで報告したい。とりあえずこの報告が全国で遺跡の保存整備に頭を悩ましておられる諸賢にいくらかでも参考となれば幸いである。

調査結果から

次頁以下に掲げた一覧表は、昭和52年10月、埋蔵文化財センターが都道府県教育委員会に照会しておこなった、古代家屋復原実態調査の結果にもとづき作製した。復原例は159棟にものぼる。宮城、三重、滋賀、大阪、山口、徳島、香川、高知、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄の13府県では該当例がなく、表からは割愛した。

復原例が最も多いのは静岡県の22戸で、長野県19戸、岐阜県14戸、福島県の13戸が続く。5戸以上ある都道県を列挙すると、北海道、埼玉、千葉、東京、愛知、兵庫となり、関東・中部地方に多いことがわかる。

種類別では堅穴式が圧倒的に多く88%を占め、平地式・高床式は各々11・8戸に過ぎない。

次に時代別にみてみると、縄文時代が圧倒的に多く、弥生時代がこれにつき、古墳時代以降はごく僅かに過ぎない。

一遺跡あたりの戸数は1戸のばあいが多く、福島県三森遺跡6戸、同県原瀬上原遺跡5戸、岐阜県炉畠遺跡6戸、同県峰一合遺跡5戸、静岡県登呂遺跡7戸、同県蜆塚遺跡5戸など、多数を復原した例もある。

完成年度は70年代以降が多く、以前では1958年が比較的多い。なお、最初の復原例は、先述のように長野県与助尾根遺跡であって、1949年のことであった。1951年には長野県広畠遺跡、同平出遺跡で復原され、翌年には千葉県戸張遺跡、ついで同県中根八幡前遺跡で復原された。著名な登呂遺跡のばあいは1954年のことである。

管理機関は地元の教育委員会が多いが、登呂遺跡のばあい、家屋毎によって教育委員会、観光課と異なることもある。

最も注目すべき点は、復原した際の報告がほとんどないことで、報告があるばあいでも設計図や仕様を欠き、経費など詳細を知りうる例はまれである。なお、経費が判明しているばあいの平均は100万円ほど、屋根材としての茅や茅葺き職人の入手が困難なことが指摘されている。補修の際にもこの点がネックとなることが多いようだ。また、火災に見舞われた例も十指に余り、維持管理のむづかしさも推測される。

復原方法には大きく次の三種の別が認められるが、一覧表ではこの違いがかならずしも明瞭でない。

- (A) 遺構の原位置に忠実に復原したもの
- (B) 移築復原したもの
- (C) 遺構と全く無関係なもの（モデル復原）

10頁以下に復原設計図を例示したが、これらの設計が正確であるとか、あるいは望ましい姿だというわけではかならずしもない。新潟県大平遺跡のばあいを例外として、これら諸例が設計図と共に報告され、しかも簡単ながら仕様も記載されていたので取りあげたのである。図はすべて100分の1に統一したため、線が見えにくくなつた部分ができてしまった。御容赦願いたい。

調査に際しては、都道府県教育委員会文化財担当課の多大なる御協力を得た。厚く感謝の意を表する次第である。

復原古代家屋一覧

凡　　例

1. ここに収録した復原古代家屋一覧は、昭和52年10月、都道府県教育委員会に照会して得た資料をもとに作成した。
2. 記載順は自治省の市町村コード番号にもとづく。
3. 関連文献中には、余白の関係で、略記したものがある。また、時代欄も不備な点が多い。

遺　跡　名	所　　　在	種　類	時　代	戸数	完成年度	設　計　者	管理機関	関連文献・備考
北　海　道								
最寄貝塚	網走市北1条東2丁目	竪穴式	オホーツク	1	1956	米村喜男衛	網走市	『網走郷土博物館叢書』第4号 1956
上士別遺跡	士別市上士別町13線南2号14番地	平地式	縄文早～前期	3	1973・75・77	山崎博信	市教委	『上士別遺跡』1975
元町遺跡	網走郡女満別町東2条1丁目1の2	竪穴式	擦文～オホーツク	1	1959	大場利夫	町教委	『女満別遺跡』1960
青　森　県								
是川中居遺跡	八戸市大字是川	竪穴式	縄文晩期	2	1971	江坂輝弥・ 塙野半十郎	市教委	弘前市大森勝山遺跡の大住居址を 模し、 $\frac{1}{2}$ 大に復原
岩　手　県								
堀野I遺跡	二戸市福岡堀野字長池	竪穴式		1	1963	草間俊一	市教委	
仙波堤遺跡	岩手郡岩手町久保第7地割字沢口	竪穴式		1	1968	佐々木弥右エ門	個人	
西根遺跡	胆沢郡金ヶ崎町西根字原添下	竪穴式	古代蝦夷	1	1963	藤島亥治郎	町教委	『金ヶ崎町西根遺跡』1959
秋　田　県								
一丈木遺跡	仙北郡千畠村一丈木	竪穴式		1	1977	なし	村教委	
山　形　県								

角二山	北村山郡大石田町大字大石田上ノ原乙	縫穴式	2	1973	伊藤設計事務所	町教委	上野秀一「山形県角二山遺跡をめぐって」(『山大史学』4)
小四王原 A 279	西置賜郡白鷹町大字高岡外ノ王山	縫穴式	1	1974	平吹利数	町教委	『白鷹町郷土史研究会報』4 『白鷹町史 上』1976
福島県							
三森遺跡	郡山市逢瀬町多田野休石	縫穴式 繩文後期	6	1965	梅宮茂	市観光協会	
原瀬上原遺跡	二本松市原瀬日照田	縫穴式 繩文中期	5	1970	目黒吉明	原瀬上原遺跡保存会	
岩淵遺跡	伊達郡国見町字高城岩淵	縫穴式 繩文中期	1	1974	目黒吉明	町教委	
飯野白山遺跡	伊達郡飯野町字白山	縫穴式	1	1959	後藤守一	町教委	
茨城県							
上ノ代遺跡	日立市田尻町上ノ代	縫穴式	1	1973	石川光男	日立市	
磯部遺跡	西茨城郡岩瀬町磯部	縫穴式	1	1975	西宮一男	岩瀬町	
栃木県							
星野遺跡	栃木市星野町392-2	縫穴式 繩文前・中期	3	1968	市教委	市教委	『栃木市星野遺跡』1969 1棟は貯蔵庫
井頭遺跡	真岡市下籠谷九石	縫穴式 土師	1	1975	斎藤正美	井頭公園事務所	『井頭』1975
群馬県							
三原田遺跡	勢多郡赤城村大字三原田三原田住宅公園内	縫穴式 繩文中期 (敷石住居)	1	1977	山崎光	村教委	山崎光「赤城村三原田遺跡」(『群馬文化』176) 1977 移築復原
埼玉県							
大宮公園遺跡	大宮市高鼻町4丁目219	縫穴式	2	1971	藤島亥治郎	県博	『埼玉県立博物館紀要』2 1975
今宿遺跡	狭山市上広瀬字今宿478	縫穴式	1	1971	柳田敏司	市教委	
高井遺跡	桶川市大字日出谷字高井838	縫穴式	1	1969	吉川国男	市教委	『高井遺跡』
上谷遺跡	坂戸市大字中小坂	縫穴式	1	1976	栗原貞雄	市教委	
千葉県							
加曾利貝塚	千葉市桜木町163	縫穴式 繩文	1	1966	後藤和民	市立加曾利貝塚博物館	
須和田遺跡	市川市須和田2丁目	縫穴式 弥生	1	1968	関野克	市公園緑地課・須和田公園管理事務所	
中根八幡前遺跡	野田市中根八幡前	縫穴式	1	1953	樋口清之	市立郷土博物館	
戸張遺跡	柏市戸張(区立文京学園内)	縫穴式	1	1952	樋口清之	文京学園	
田子台遺跡	安房郡鋸南町下佐久間1536	縫穴式 弥生	1	1954	早大考古学研究室	鋸南町	『安房勝山田子台遺跡』1954

東京都

代々木八幡遺跡	渋谷区代々木5-1-1	竪穴式 繩文	1 1951	樋口清之	区教委	
松ノ木遺跡	杉並区松ノ木1-3-22	竪穴式 鬼高期	2 1955	藤島亥治郎	区教委	『松ノ木古代住居遺跡のしおり』
栗原遺跡	練馬区氷川台1-2-7	竪穴式 落合式(飛鳥・奈良)	1 1956	藤島亥治郎	都建設局	『栗原』1957
中田遺跡	八王子市山王3-12	竪穴式 鬼高期前葉	1 1969	渡辺保忠	市教委 (1977焼失)	渡辺保忠「東京都中田遺跡の復原住居」(『考古学ジャーナル』42・44)
本町田遺跡	町田市本町田3556	竪穴式 繩文・弥生	2 1971	鈴木重吉	市教委	『本町田遺跡公園』
八小遺跡	小平市鈴木町1-355	竪穴式	1 1970	加藤有次	市教委	

神奈川県

神之木台遺跡	横浜市神奈川区神之木台22-14	竪穴式	1 1973	寿建設工業株式会社	県立神之木台青少年会館長
三殿台遺跡	横浜市磯子区岡村4-11-22	竪穴式 弥生	3 1966・67	大岡信	市教委 『三殿台』1965

新潟県

大平遺跡	小千谷市真人町字大平	竪穴式 繩文中期末	1 1957	藤島亥治郎	市教委	『大平遺跡』1958
滝ノ前遺跡	村上市岩ヶ崎	竪穴式 弥生(天王山式)	1 1971	田島信六		『滝ノ前遺跡』1972
(佐渡博物館)	佐渡郡佐和田町八幡	竪穴式	1 1968	藤島亥治郎		『館報』2 佐渡郡金井町千
(同上)	同 上	高床式	1 1968			種遺跡の住居址に基づき復原

富山县

春日遺跡	上新川郡大沢野町笛津春日	竪穴式	1 1966	大屋良吉	町教委
牛滑遺跡	婦負郡婦中町牛滑	竪穴式	1 1963		町教委

石川県

舟岡山遺跡	石川郡鶴来町小幡町	竪穴式	3 1958	石部正辛・守部悟	県立白山青年の家
-------	-----------	-----	--------	----------	----------

福井県

本郷遺跡	勝山市鹿谷町本郷	竪穴式	1 1977	網野孝一	鹿谷小学校	『勝山市埋文報』第1集 1977
------	----------	-----	--------	------	-------	------------------

山梨県

法能遺跡	都留市法能792	竪穴式	1 1974	吉田格・里村晃一	都留市	
宮谷遺跡	大月市富浜町宮谷748	竪穴式	1 1974		大月市	法能遺跡の住居を模し復原
上野原遺跡	東八代郡中道町右左門上野原790-1	竪穴式	1 1974	川崎義雄	中道町	

長野県

岡屋遺跡	岡谷市岡屋牛平	竪穴式	縄文・弥生	2	1958	岡屋遺跡保存会	同左	『岡屋遺跡』1958・60
広畠遺跡	岡谷市三沢広畠	竪穴式	縄文中期	1	1951	地元同好会		『岡谷市史』上巻
御殿場遺跡	伊那市富県7391-1・7392-1	竪穴式		1	1973	友野良一	市教委	『伊那路』185号 1972
東伊那遺跡	駒ヶ根市東伊那伊那耕地殿村	竪穴式		1	1965	藤島亥治郎	市教委	『東伊那遺跡』1966
養命酒駒ヶ根工場内遺跡	駒ヶ根市赤穂16410	竪穴式	縄文中期・平安	3	1972・73・76	友野良一	養命酒製造KK	『養命酒駒ヶ根工場内遺跡』
与助尾根遺跡	茅野市豊平東嶽	竪穴式	縄文中期	3	1949	堀口捨己	尖石考古館	『尖石』1957
平出遺跡	塩尻市宗賀357	竪穴式	古墳	1	1951	藤島亥治郎	市教委	『平出』1955
大深山遺跡	南佐久郡川上村大深山西原944-1	竪穴式	縄文中期	2	1962	八幡一郎	村教委	『信濃大深山遺跡』1976
井戸尻遺跡	諏訪郡富士見町境井戸尻	竪穴式	縄文中期	1	1958・70	武藤雄六	町教委	『井戸尻』1965
臥竜遺跡	諏訪郡原村払沢5980-1	竪穴式	縄文後期	1	1958	堀口捨己	原村払沢区	
内城遺跡	上伊那郡辰野町宮木	竪穴式		1	1973			辰野西小学校
(遺跡と無関係)	須坂市小山839	竪穴式		1	1975	関孝一	市立博物館	
(遺跡と無関係)	飯山市照里808	竪穴式		1	1976	小林幹男	照丘高等学校	

岐阜県

赤保木遺跡	高山市赤保木	竪穴式	縄文中期	1	1970	高山市	高山市	
炉烟遺跡	各務原市鶴沼野中炉烟杉跡	竪穴式	縄文中～晚期	6	1972	大江命	各務原市	『炉烟遺跡発掘調査報告』1973
中野遺跡	不破郡閔ヶ原町小池	竪穴式	縄文中期	1	1965		個人	移転復原
峰一合遺跡	益田郡下呂町峰一合	竪穴式	縄文中期	5	1972	大江命	下呂町	
門端遺跡	大野郡清見村門端	竪穴式		1	1971	清見村	清見村	

静岡県

登呂遺跡	静岡市登呂5丁目	竪穴式	弥生	5	1954・62・70	関野克	市教委・観光課	『登呂 本編』1954
高床式	弥生	2	1954・71	関野克	市教委・観光課			
蜆塚遺跡	浜松市蜆塚4-22-1	平地式	縄文後・晚期	5	1957・58	後藤守一	市郷土博物館	『蜆塚遺跡 総括編』1962
伊場遺跡公園	浜松市東伊場2-22-1	竪穴式	古墳	2	1976・77	水野設計事務所	同上	『伊場遺跡月報』
高床式	奈良	2	1976・77	(福山敏男指導)	同上			移転復原
ゆずり葉遺跡	熱海市泉冥加沢276	平地式	奈良	2	1976・77	同上		
段間遺跡	賀茂郡河津町見高1033	竪穴式	縄文	1	1975	小野真一	昭和不動産	『ゆずり葉』モデル復原
		竪穴式	縄文	3	1970	萩原光一	町教委	『段間遺跡第二次調査報告書』

愛知県

瓜郷遺跡	豊橋市瓜郷町寄道	竪穴式	1	1955	久永春男他	市教委	『瓜郷』1963
曾根遺跡	豊田市曾根町	竪穴式	2	1976	市都市計画	市教委	
印場大塚遺跡	尾西旭市印場字東向畑	竪穴式	1	1975	七原恵史	市教委	『印場大塚古墳』1977 豊田市高橋遺跡の遺構を復原
貝殻山貝塚	西春日井郡清洲町朝日字貝塚1	竪穴式 弥生	1	1965	城戸久	県教委	岩倉市大池遺跡の遺構を復原
鞍船遺跡	北設楽郡津具村鞍船9	竪穴式	1	1956		村教委	

京都府

浜詰遺跡	竹野郡網野町大字浜詰小字栗山	竪穴式 繩文	1	1959	酒詰仲男	町教委	岡田茂弘「京都府浜詰遺跡発見の竪穴住居址」(『先史学研究』1)
------	----------------	--------	---	------	------	-----	---------------------------------

兵庫県

大歳山遺跡	神戸市垂水区西舞子4丁目	竪穴式 弥生前期	1	1974	多淵敏樹	市教委	
田能遺跡	尼崎市田能字中ノ坪384の2	竪穴式 弥生中期 高床式	2	1970	宮沢智士	市教委	『田能遺跡概報』1967
会下山遺跡	芦屋市三条町字会下山	竪穴式 弥生後期 高床式	1	1959	石野博信・ 藤島亥治郎	市教委 市教委	『会下山』1969

奈良県

大淀桜ヶ丘遺跡	吉野郡大淀町下淵桜ヶ丘小学校	竪穴式	1	1966	岡田英男	桜ヶ丘小	老朽化のためとりはらい
---------	----------------	-----	---	------	------	------	-------------

和歌山県

阿須賀神社遺跡	新宮市阿須賀町2番地の2	竪穴式	1	1977	稻葉和也	阿須賀神社	竪穴保存会
---------	--------------	-----	---	------	------	-------	-------

鳥取県

福市遺跡	米子市福市	竪穴式 古墳	1	1969	鈴木充	米子市	『福市遺跡の研究』1969
------	-------	--------	---	------	-----	-----	---------------

島根県

出雲国庁跡	松江市大草町宮の後	竪穴式	1	1972	鈴木充	県教委	『八雲立つ風土記の丘設置事業報告』
出雲玉作遺跡	八束郡玉湯町大字玉造	竪穴式 古墳	2	1973	鈴木充	町教委	

岡山県

沼遺跡	津山市沼	竪穴式 弥生中期	1	1954	渋谷泰彦	市教委	『津山弥生式住居址群の研究』1957
-----	------	----------	---	------	------	-----	--------------------

五万原遺跡	小田郡美星町五万原	竪穴式	弥生末	1	1968	間壁忠彦	町教委	『倉敷考古館報』5 1968
野田山遺跡	阿哲郡哲多町成松	竪穴式	弥生中期	1	1959	石井米太郎	町教委	1967倒潰により撤去
諏訪神社境内遺跡	久米郡中央町原田	竪穴式	弥生	1	1969	鎌木義昌	町教委	

広 島 県

恵下山G地点遺跡	広島市高陽町大字玖字真龜	竪穴式		1	1976	間組	広島市
日光寺遺跡	三次市十日市町日光寺	竪穴式		1	1975	潮見浩・藤田等	三次市
勇免遺跡	三次市塩町勇免	竪穴式		1	1971	市教委	三次市

愛 媛 県

八堂山遺跡	西条市八堂山乙1番地	竪穴式 高床式	弥生	2	1973	長井数秋	市教委	吉本塙「八堂山住居址小論」(『ソーシャルリサーチ』2号) 1973
				1	1974	長井数秋	市教委	

福 岡 県

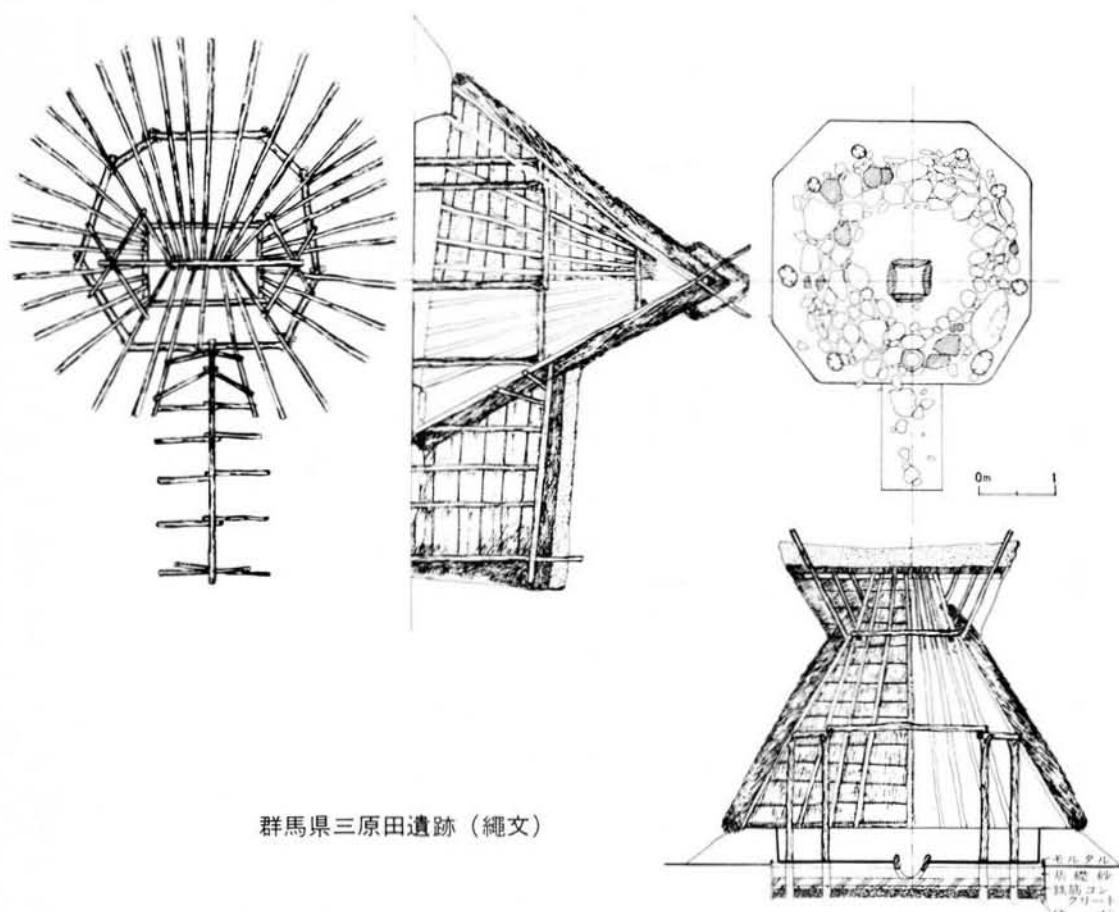
裏山遺跡	筑後市大字北島字裏山	竪穴式		2	1964	岩崎光	市教委	『裏山遺跡』1966 1974改築
三国手遺跡	朝倉郡夜須町松延	竪穴式		1	1968		安野焼窯元	

佐 賀 県

牟田辺遺跡	多久市南多久町牟田辺	竪穴式	弥生中期	1	1977	宮原種生	市教委	『牟田辺遺跡』(展示会資料)
-------	------------	-----	------	---	------	------	-----	----------------

大 分 県

実相寺春木遺跡	別府市大字北石垣字春木	竪穴式 平地式		1	1957	賀川光夫他	市教委	
				1	1957	賀川光夫他	市教委	
白潟遺跡	佐伯市大字鶴望3847	竪穴式		1	1958	賀川光夫	若宮八幡宮	『白潟遺跡』1958



群馬県三原田遺跡（縄文）

工事使用材料表

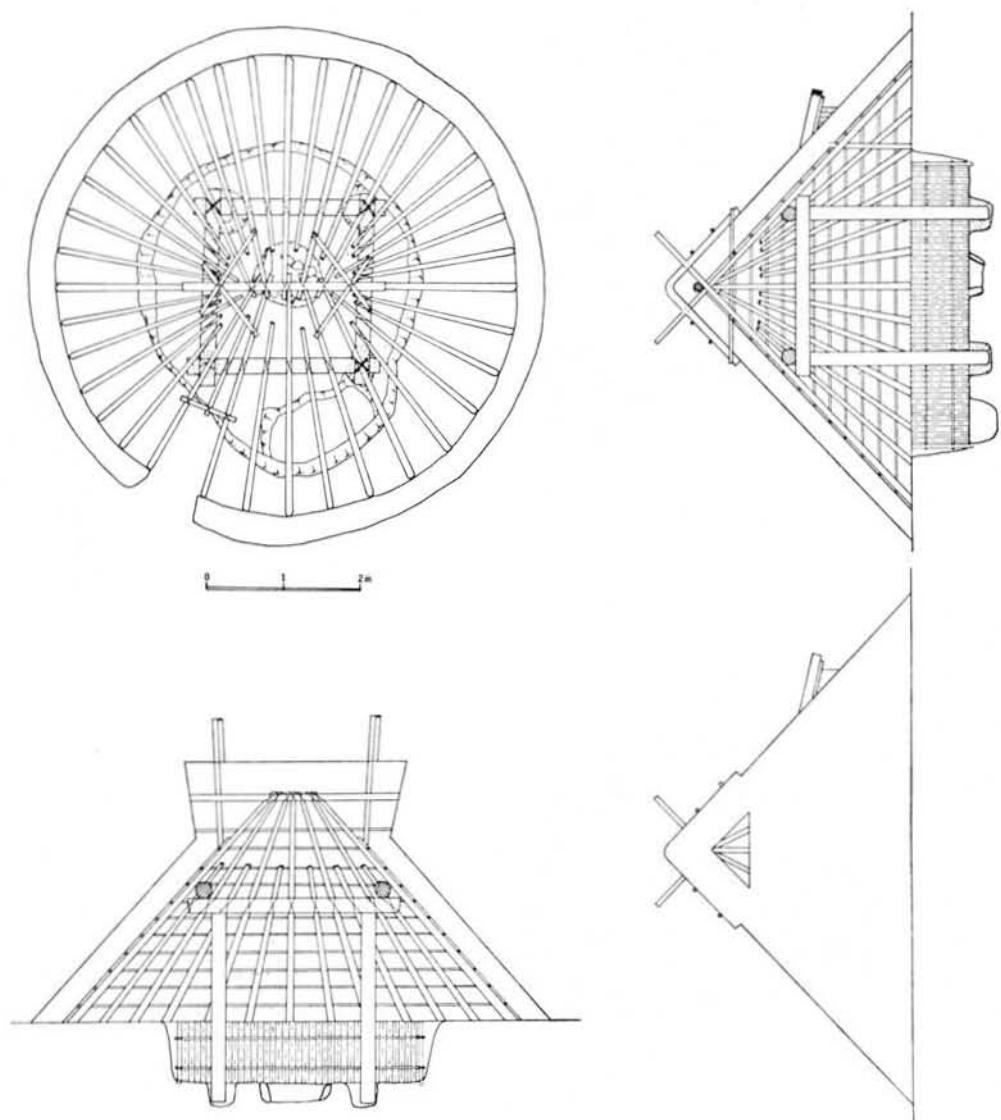
基礎工事

砂 (基礎砂) = 2.0m³
セメント (基礎コンクリート) = 2.0m³
碎石 (基礎碎石) = 1.8m³
鉄筋 = 50kg
モルタル = 基礎モルタルとソイルセメント
ト 2 様を使用
(敷石床補強)
(セメント 10 袋 + 砂 2.0m³)
ソイルセメント内訳
セメント + 碎石 + ローム土 +
(白堊)
砂 + 松煙
(参考)
基盤工事 = 28名
石敷及モルタル工事 = 12名
総計 40 名
(但し、外周芝張工事・舗道工事は、含
んでいない)

上屋復原工事

柱材 = サクラ・ナラ・ケヤキ 計 8 本
檻材 = サクラ・ナラ・ケヤキ・クルミ
(小屋檻) 計 12 本
垂木 = シデ・クヌギ・クルミ・エゴツ
(欄木) キ・クリ 計 34 本
(総本数 85 本)
茅 (カヤ) = 180 束
押木 = 300 本
藤ヅル = 軽トラック 2 台分
グシ用芝 (30 × 100cm) = 30 枚
竹 = (6 寸竹 5 m) 4 本
番線 = 25kg・銅線 = 1.5kg・ハリガネ =
6 kg
釘 (4 寸・1.5 寸) 各 4 kg ずつ 計 8 kg
防腐剤 = 2 ℥
繩 玉 = 11 玉
(参考)
材料集配 = 延 36 名 (6 日間)
屋根構架 = 延 44 名 (10 日間)
(茅葺き)

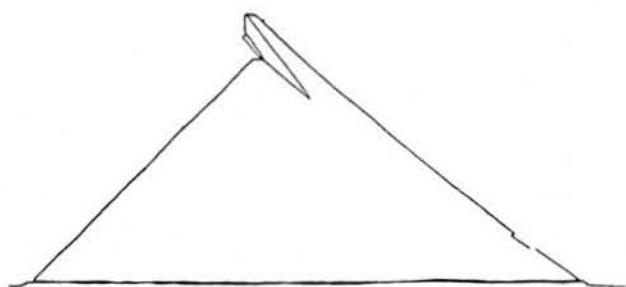
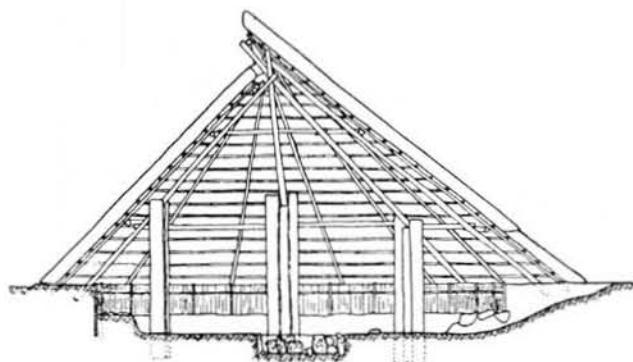
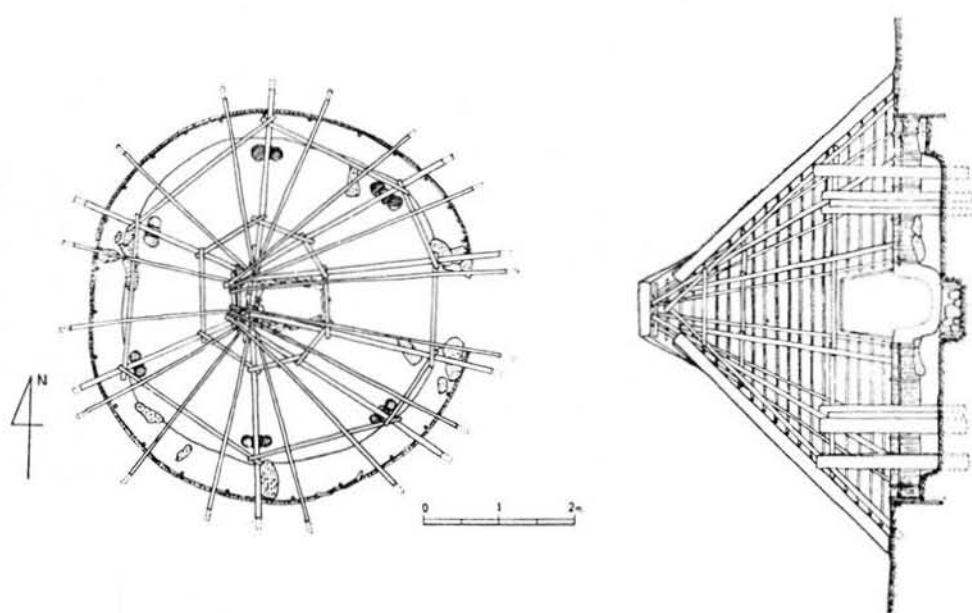
総計 80 名



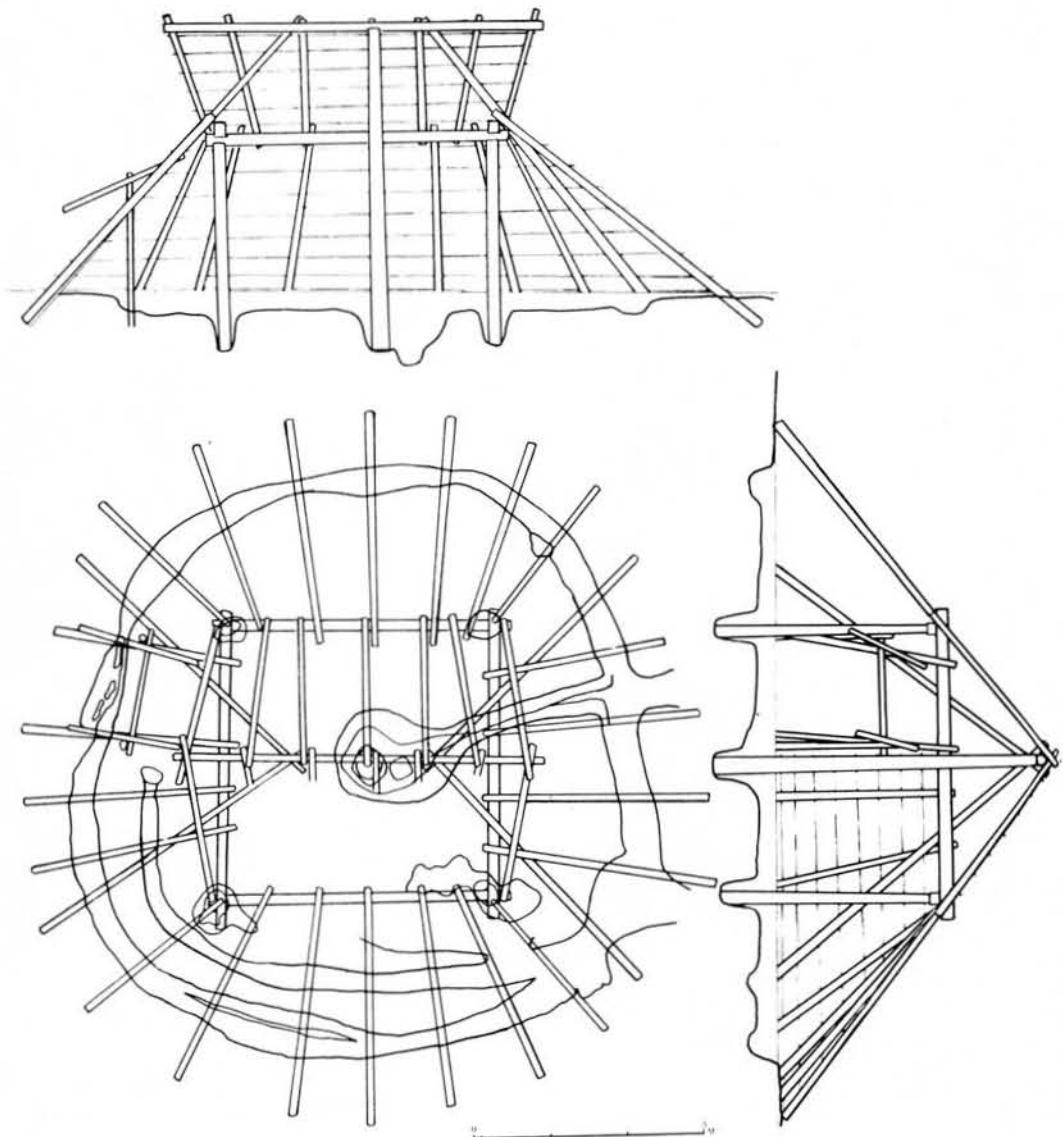
長野県養命酒駒ヶ根工場内遺跡（縄文）

材 料

木工事	種	木	丸	末口	6cm	長さ	4.5m	8本
柱 丸 径 20×20cm 長さ 4.5m 4本	種	木	丸	末口	6cm	長さ	3.5m	24本
桁 角 # 20×20cm 長さ 3.3m 2本	飛	貫	丸	末口	10cm	長さ	3.5m	3本
梁 角 # 20×20cm 長さ 3.0m 2本	小	舞	い	丸	3cm	長さ	3.0m	100本
平叉首 丸 末口 6cm 長さ 5.0m 2本	支	柱	丸	末口	12cm	長さ	2.0m	19本
妻叉首 丸 末口 6cm 長さ 6.0m 2本	母	屋	桁	押角	7×7cm	長さ	3.2m	4本
外転ばし 丸 末口 8cm 長さ 2.0m 4本	母	屋	桁	押角	7×7cm	長さ	1.4m	8本
入口上梁 丸 末口 10cm 長さ 1.6m 1本	壁	板			厚口 1.5cm	長さ	2.5m	62.5m ²
入口柱 丸 末口 10cm 長さ 1.8m 2本	杉	皮						125m ²



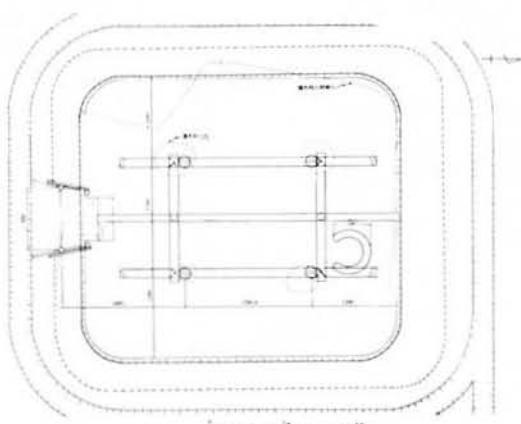
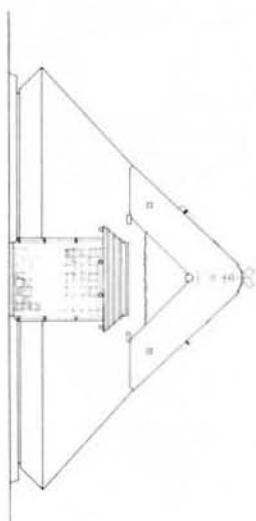
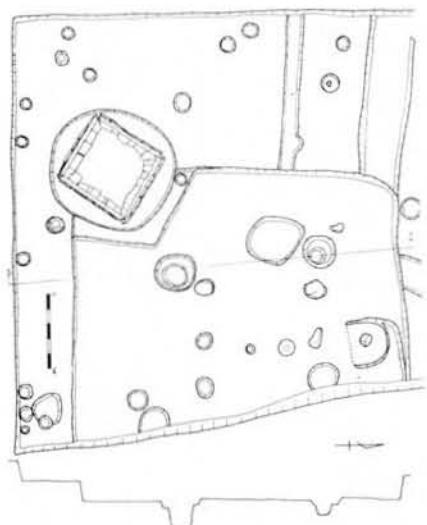
新潟県大平遺跡（縄文）



兵庫県会下山遺跡（弥生）

復原住居材料

杉丸太	末口	10cm	長さ	6.5m	4本	杉丸太	2~4m もの	4本	茅	2,200束
"	"	11cm	"	5m	1本	小舞竹		5束	杉皮	10束
"	"	12cm	"	4.2m	4本	釘及びボルト・クレオソート			鳥止り	5組
"	"	12cm	"	4m	22本	藤蔓	(現地にて採集)		小麦藁	160貫
"	"	12cm	"	3m	14本	大工	2人		青竹	若干
"	"	12cm	"	1.6m	1本	人夫	2人		玉繩	5玉
"	"	12cm	"	1.4m	2本				職人	2人
"	"	12cm	"	1.6m	6本					



島根県出雲国庁跡（古墳）

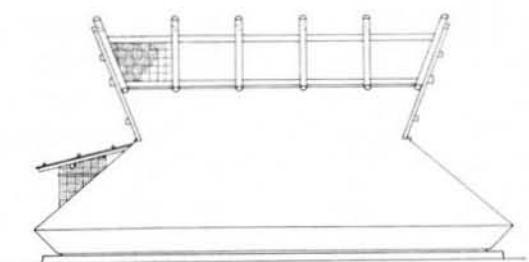
工事名 風土記の丘古墳古代家屋復原工事

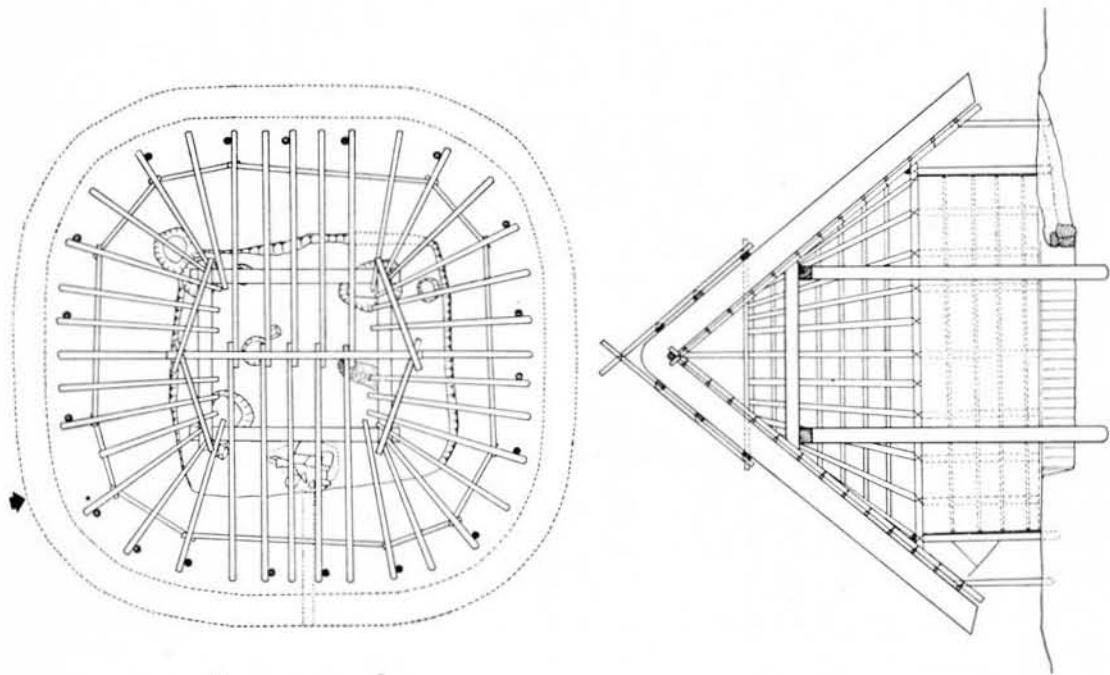
工 期 昭和47年7月7日～8月25日

請負契約者 株式会社木村建設

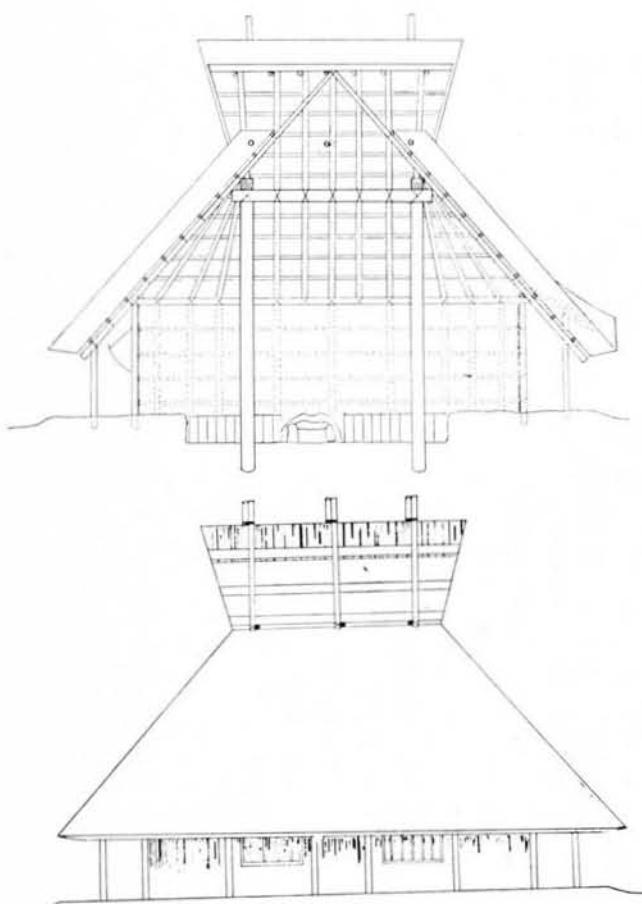
請負金額 999,000円

同追加金額 50,000円





長野県養命酒駒ヶ根工場内遺跡（平安）



材 料

木工事

柱	丸	末口	17cm	長さ	2.6m	4本	
桁	"	"	15cm	"	2.6m	2本	
桁	丸	"	15cm	"	2.5m	2本	
又	首丸	"	9~10cm	"	4.2m	6本	
又	首丸	"	9~10cm	"	5.5m	4本	
又	首丸	"	9~10cm	"	5.0m	5本	
入口上梁	丸	"	9cm	"	1.1m	3本	
棟持又首	丸	"	9cm	"	1.4m	4本	
檼	木	丸	"	9cm	"	4.0m	10本
檼	木	丸	末口	9cm	長さ	2.5m	6本
飛	貫	丸	"	9cm	"	2.3m	3本
屋根押	丸	"	6cm	"	3m	6本	
障壁材	小枝	径	0.5cm	"	1m	20束	

屋根工事

小舞	末口	2cm	長さ	2.5m	100本	
茅					200束	
藤づる					300m	
堤					3巻	
補足材	丸	末口	8cm	長さ	2m	30本

昭和53年度 埋蔵文化財センター発掘技術者研修予定一覧

区分	一般研修	専門研修							特別研修
題目	一般課程	遺跡調査課程	遺物整理課程	遺跡測量課程	遺物保存科学課程	自然遺物課程	遺跡保存整備課程	調査計画課程	特殊調査技術課程
実施月	7月下旬～8月	5月	6月	9月下旬～10月	11月	12月	1月	3月	未定期回
期間	約40日	約20日	約15日	約40日	約15日	約10日	約10日	約10日	1週間以内
定員	18名	18名	18名	12名	12名	12名	18名	16名	30名
対象	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員、若しくはこれに準ずるもので発掘調査の経験の十分でない者	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員、若しくはこれに準ずる者で、一般研修終了またはそれと同程度の経験を有する者	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
内容	遺跡の発掘調査に関する一般的な基礎的知識と技術の研修	集落遺跡をはじめとする遺跡の発掘調査に関して必要な専門的知識と技術の研修	遺物の調査整理記録に関して必要な専門的知識と技術の研修	遺跡の測量に関して必要な専門的知識と技術の研修	遺物の保存に関して必要な専門的知識と技術の研修	自然遺物の調査整理記録に関して必要な専門的知識と技術の研修	遺跡の保存整備に関して必要な専門的知識と技術の研修	遺跡の分布調査をはじめ発掘調査の計画立案に関して必要な専門的知識と技術の研修	新しい調査方法等の知識または技術に関する短期間の研修
宿泊施設	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	なし